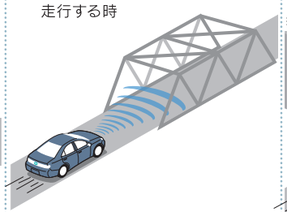
ご注意いただきたいこと
Lexus Safety System + について、より深くご理解いただくために。

プリクラッシュセーフティシステム（PCS）について

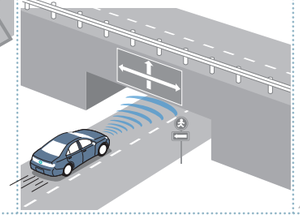
極めてまれですが、衝突の可能性がなくても、次のような場合にはシステムが作動することがあります。

●路面にうねり・凸凹がある時など車両姿勢が変化している時

●道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行する時



●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行する時



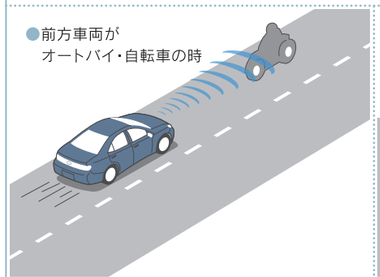
●上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行する時

［その他］●車両や歩行者のすぐそばを通過する時　●車線を変更して先行車を追い越す時　●車線変更している先行車を追い抜く時
●右左折する先行車を追い越す時　●右左折待ちの対向車とすれ違う時　●先行車が急減速した時
●隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行する時　●道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近づいた時
●横断する歩行者が車両のすぐそばに近づいた時　●カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在する時
●路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物がある時

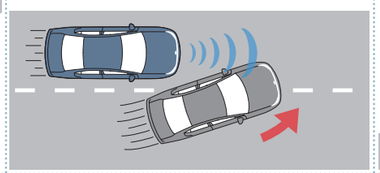
※システムとしては、上記のようなシーンで作動しないよう設計していますが、衝突する場合と区別しにくいような状況の場合に作動する可能性があります。また、ブレーキをかけると通常よりブレーキが強くかかることがあります。

プリクラッシュセーフティシステムは、次のような状況では有効に作動しない場合があります。

●前方車両がオートバイ・自転車の時



●車両が横から割り込んできたり飛び出してきたりした時



●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）の時

●前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがある時

●車両前方に水蒸気や煙などがある時

●周囲の明るさが急激に変化する場所を走行する時（トンネルの出入り口など）

［その他］●前方から自車に向かって車両が近づいてくる時　●前方車両が横向きの時　●先行車の後端面積が小さい時（空荷のトラックなど）
●前方車両が特殊な形状の時（トラクター・サイドカーなど）　●前方車両が太陽光などを強く反射している時
●前方車両が急な動きをした時（急ハンドル・急加速・急減速など）

プリクラッシュセーフティシステム（PCS）について

次のような場合は、必ずプリクラッシュセーフティシステムをOFFにしてください。
プリクラッシュセーフティシステムが予期しない作動をする可能性、
または作動すべき時に作動しない可能性があります。

●けん引される時　●けん引する時　●船舶・トラック・カートレインなどに積載する時
●シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用する時　●サーキットなどでスポーツ走行する時
●車両姿勢が変化している時（メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けている時や、サスペンションを改造している時など）
●踏切内に閉じ込められた時

その他の留意事項

システムの自動解除

システムに異常がある時、警告灯が点灯または点滅し、警告メッセージが表示されます。システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。また、プリクラッシュブレーキが作動し、車両が停止した後、約2秒で作動解除します。

カメラセンサーが検知しない場合

●太陽光など強い光がレンズに直接あたっている時
●悪天候などで視界が悪い時　●センサーの温度が非常に高い時
●トンネル内や夜間など、周囲が暗い状況でヘッドランプをつけていない時
●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きい時などは、フロントウインドゥガラスが曇りやすくなります。フロントウインドゥガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS警告灯が点滅します。その場合は、フロントデフロスターで曇りなどを取り除いてください。

センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次の状況ではセンサーが正しく車両を検知できず、接近警報も作動しません。ブレーキペダルやアクセルペダルを状況に応じて操作してください。
●先行車が急に割り込んできた時
●先行車が低速で走行中の時
●同じ車線を二輪車が走行中の時
●先行車の後部分が小さすぎる時（荷物を積んでいないトレーラーなど）
●同じ車線に停車中の車がいる時
●周囲の車より水や雪がまき散らされ、センサーの検知の妨げになる場合
●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだ時など）

歩行者認識機能の限界

カメラの歩行者認識機能には限界があります。身長約1m未満の子どもや、大人でも直立姿勢以外の時（屈む、寝そべる等の姿勢）は、認識できない場合があります。
※歩行者が検出できないケースについては、取扱説明書をご覧ください。

センサーが検知しない場合

カラーコーンなどのプラスチック類は検知できません。動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなども検知できません。

TRCとVSCを停止した時

TRCとVSCの作動を停止した時は、プリクラッシュブレーキアシスト、プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
ただし、衝突警報は作動します。

PCS警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された時（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

次の時は、状況が改善されるとPCS警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
●炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高い時
●ボンネットが開いているなど、前方センサーの前がさえぎられている時
●フロントウインドゥガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしている時

PCS警告灯が点滅したままの時、および警告メッセージが表示されたままの時は、レクサス販売店で点検を受けてください。

レーンディパーチャーアラート（LDA）
レーンキーピングアシスト（LKA）について

次の状況ではカメラが白（黄）線を正しく検知できず、正常に作動しない場合があります。

- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行する時
- 急カーブを走行する時
- 車線の幅が極端に狭い時や広い時
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いている時
- 先行車との車間距離が極端に短くなった時
- 車線が黄色の時（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線がかすれていたり、道路鋲や置き石などの時
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれている時
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっている時
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にある時
- コンクリート路のような明るい路面を走行する時
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行する時
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行する時
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射する時
- 分岐・合流路などを走行する時
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行する時
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生する時
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱い時や、光軸がずれている時
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行する時
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行する時

次の状況ではLDA/LKAを使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着している時
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様がある時
  （ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行する時
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくい時
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っている時
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行する時

オートマチックハイビーム（AHB）
アダプティブハイビームシステム（AHS）について

次のような状況ではハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。

- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違った時
- 他車が前方を横切った時
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れする時

次の原因により、周囲の明るさが正確に検知されず、システムが適切に作動しない場合があります。

- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- フロントウインドウガラスが汚れている時や、曇っている時
- フロントウインドウガラスにひび割れや破損がある時
- カメラセンサーが変形している時や、汚れている時
- カメラセンサーの温度が非常に高い時
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光がある時
- 対向車または先行車のランプが無灯火の時や、
  ランプに汚れや変色があったり光軸がずれている時
- 急激な明るさの変化が連続する時
- 起伏や段差が多い道路を走行している時
- カーブが多い道路を走行している時
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがある時
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射する時
- 自車のヘッドランプが破損または汚れている時
- パンクやけん引などにより車両が傾いている時

レーダークルーズコントロールについて

次の状況ではレーダークルーズコントロールを使用しないでください。

- 歩行者や自転車などが混在している道路
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく検知できないような
  悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴る時

次の状況ではセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車になります。

以下の場合にはセンサーが正しく車両を検知できず、接近警報も作動しません。ブレーキペダルやアクセルを状況に応じて操作してください。

- 先行車が急に割り込んできた時
- 先行車が低速で走行中の時
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、センサーの検知の妨げになる場合
- 同じ車線に停車中の車がいる時
- 先行車の後部分が小さすぎる時（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合
  （重い荷物を積んだ時など）
- 同じ車線を二輪車が走行中の時

次の状況では車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況になります。

以下の場合には必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 先行車がいない時に車速が約40km/h 以下になった
- 車速が約40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかった
- VSC が作動した
- TRC が一定時間作動した
- TRC またはVSC をOFF にした
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できない
- パーキングブレーキが作動した
- 急坂路で制御停車した
- プリクラッシュブレーキが作動した
- インテリジェントクリアランスソナーが作動した
- 制御停車中に次を検出した（・運転席シートベルトを着用していない ・運転席ドアが開いた）
- その他の理由で自動解除される時は、システムが故障している可能性があります

Lexus Safety System + を正しく作動させるために

- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラス外側にステッカーを貼らない
- カメラセンサーのレンズに触れない
- フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、デフロスターで取り除いてください
- レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない

※ガラスコーティング剤の使用は問題ありませんが、塗布した場合でも、雨の日のワイパーは必ずご使用ください。

Lexus Safety System+ を
安全にお使いいただく上での留意事項説明

Lexus Safety System+ は運転支援システムのパッケージです。ご契約に際し、Lexus Safety System+ およびその各システムを安全にお使いいただくための留意事項についてご説明いたします。

ご使用になる際のお客様へのお願い

■運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。
■各システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
■ご使用の前には、あらかじめ取扱説明書で各システムの特徴・操作方法を必ずご確認ください。

プリクラッシュセーフティシステム

- 本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計しておりますが、その効果は様々な環境条件により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。
- 運転者が強くアクセルペダルを操作したり、ハンドル操作した場合、運転者の意思による回避操作と判断され、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。
- なお、極めてまれですが、道路環境によっては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、あわててアクセルを踏み込むと、センサーが遮断機を衝突対象物と認識しプリクラッシュブレーキが作動することがあります。その場合、「停止後に再度アクセルペダルを踏む」、「減速中にアクセルペダルを深く踏み込む」、または「プリクラッシュセーフティシステムをOFFにする」ことによりシステムを解除し、前進することができます。
- フロントウインドウガラス・フロントグリルカバーにあるセンサーで衝突対象物を検出しますので、センサーを常に汚れないように保ってください。また、センサー付近に車検シールを貼ったり、何かを取り付けたりしないでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

※詳しくは取扱説明書をご参照ください。

レーンディパーチャーアラート/レーンキーピングアシスト

- レーンディパーチャーアラート/レーンキーピングアシストは自動運転装置ではありません。また、前方への注意を軽減する装置でもありませんので、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
- 道路環境やタイヤ（応急用タイヤ・タイヤチェーン装着時）などの状態によってはレーンディパーチャーアラート/レーンキーピングアシストを使用できない場合があります。

※詳しくは取扱説明書をご参照ください。

オートマチックハイビーム/アダプティブハイビームシステム

- 周囲の状況によっては、明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になったり、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

※詳しくは取扱説明書をご参照ください。

レーダークルーズコントロール

- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
- 正常に機能していても運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、必要に応じてブレーキで減速してください。

※詳しくは取扱説明書をご参照ください。